

資料 10：欧州諸国における自転車走行空間等の基準の概要

◇欧州の自転車先進国では、自転車と自動車の混合交通に関する規定が明確に示されています。

【欧州諸国における自転車走行空間等の基準の概要】

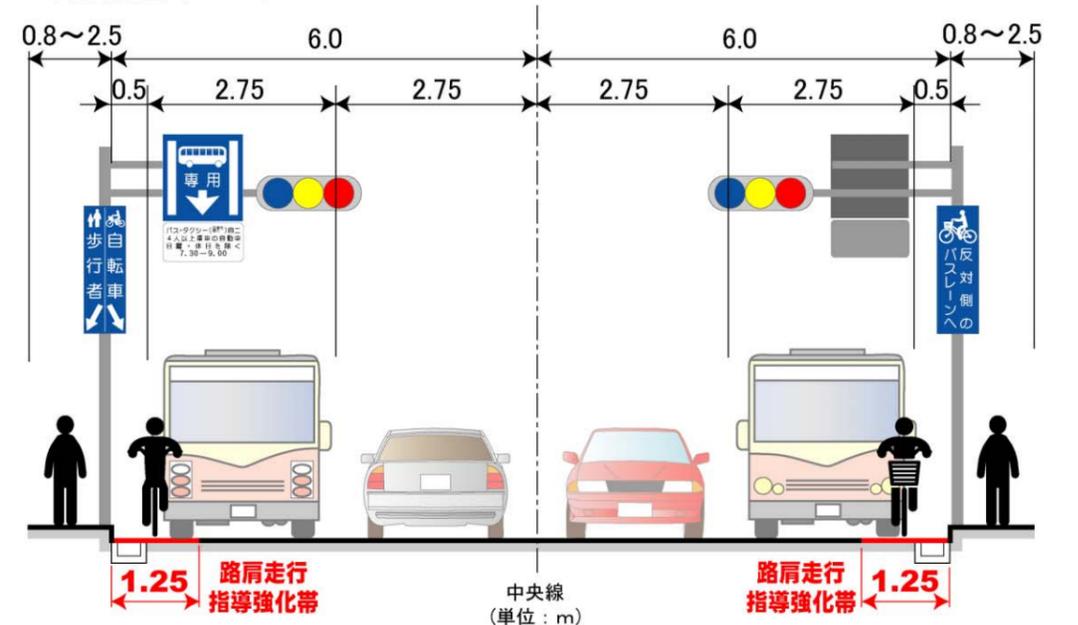
	オランダ	イギリス	フランス	ドイツ
■単路部 ・自動車との分離の指標 自転車走行空間の分離形態は、自動車交通の状況に因り決定される。	・ピーク時自動車交通量と自転車走行速度により決定 ・学校近隣等の地域状況考慮される ・歩行者とは原則分離 	・自動車の平均走行速度により決定 ・速度により、車との分離形態を決定 ・歩道の場合あり 	・自動車日交通量と自動車平均速度により決定 ・速度と交通量により車との分離形態を決定 ・歩行者とは原則分離 	・自動車日交通量と自動車平均速度により決定 ・歩道上の通行の場合あり
・標準（最小）幅員 混合交通における最小幅員は、大型車の幅に因り、車による自転車追い越しを考慮していない。分離交通では、自転車同士のスレ違いが可能となる幅を最小幅員として規定している。	・混合交通：2.60m ・分離交通：1.50m（自転車道：一方方向） ：1.50m（自転車道：双方方向） ：1.50m（自転車通行帯） 	・混合交通：4.25m（推奨幅員） ・分離交通：2.00m（自転車道：一方方向） ：2.00m（自転車道：双方方向） ：1.50m（自転車通行帯） 	・混合交通：3.00m ・分離交通：1.50m（自転車道：一方方向） ：1.25m（自転車通行帯） 	・混合交通：2.75m ・分離交通：1.60m（自転車道：一方方向） ：2.00m（自転車道：双方方向） ：1.25m（自転車通行帯）
■特殊部（駐車帯） 路上駐車帯が設置されている道路空間では、自転車と駐車車両との接触を回避するため、必要な分離幅を設けることとしている。	・接触回避のため、1~1.5mの分離帯を設置 	・接触回避のため、1.0mの分離帯を設置 	・接触回避のため、0.5~0.7mの白線等で分離 	・接触回避のため0.5~0.75mの保護帯を設置
■交差点部 交通手段として確立している自転車は交差点の通行形態も基本的に車と同等である。自転車優先という考えの基、動力性能が車に劣る面を補助し、安全性や視距を確保するための対応を行うことが基本となっている。	・自動車設計速度、地域区分、自転車走行空間の機能を要因として交差点形式を決定 	・自動車の交通量・法定速度を基本に、自転車、歩行者の交通量や交通形態によって交差点の整備水準を決定 	・自転車交通量、地域区分、交通特性に基づき、交差点の機能を決定 	・交差点形式毎に、整備方針を定義 ・2段階左折の設定もあり
■自転車駐車空間 自転車の利用促進に必要な不可欠な施設に加えて盗難対策という認識	・地域特性に応じ、駐輪スペース以外に確保すべき歩道幅員を規定（例：通学路2.4m） ・施設毎に、必要台数、駐輪設備の形式を規定（スタンド、ロッカー、囲い） 	・駐輪時間を基本として、設置箇所（施設）、駐輪設備の形式を規定 ・駐輪施設構造も規定（例：スタンドの構造 高さH=750mm、間隔W=1,000mm） 	・設置箇所（施設）毎に確保すべき機能を決定し、駐輪設備の規模、設備を規定 ・多様な駐輪施設設置の特徴を整理し、設置箇所に通じた装置を選択 	・需要毎に3種類に駐輪施設形式を分類（個別自転車立て、大規模屋外駐輪場、施設式自転車室） ・駐輪施設は、自転車交通の起終点全てで設置が必要という考えを明示
■その他 ・公共交通機関との連携 ・舗装 ・着色	・基本的に公共交通機関への自転車の持ち込み可能 ・駅等で自転車対応の施設充実（エレベータ、スロープ、駐輪施設） ・自転車に優先権がある交差点では、交差点内も着色 ・赤色が望ましい（自転車専用道線）	・自転車と公共交通機関の連携により長距離トリップによる自動車交通との競争力を確保 ・サイクル&ライドの施策を展開 ・バイク&ライドの施策を展開 ・バイク&ライドの施策を展開 ・バイク&ライドの施策を展開	・サイクル&ライドの施策を展開 ・付加サービス付き駐輪場の設置 ・地形的デメリットを補うため公共交通機関と相互補完し、自動車交通からの転換を促進。 ・パリ地域圏原則持ち込み可能（無料）	・赤色が有効

（出典：瀬尾卓也・望月靖之「自転車利用環境整備の海外事例」、JICE REPORT（国土技術研究センター発行）、vol. 4、p37、2003. 11）

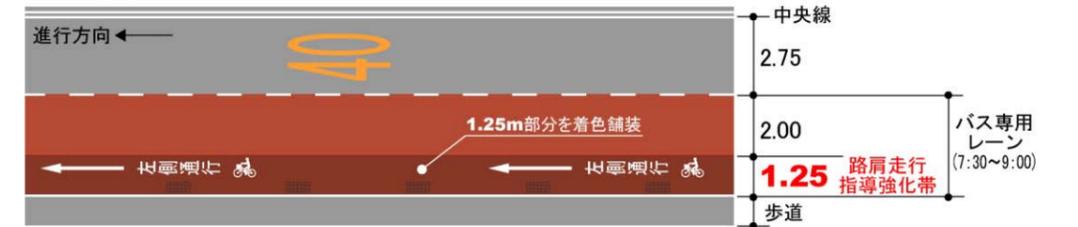
資料 11：路肩走行指導強化帯の整備イメージ

◇現在のバス専用レーン上において、歩道端から1.25m（側溝0.5m含む）を『自転車の路肩走行指導強化帯』とした場合のイメージ図を以下に示します。

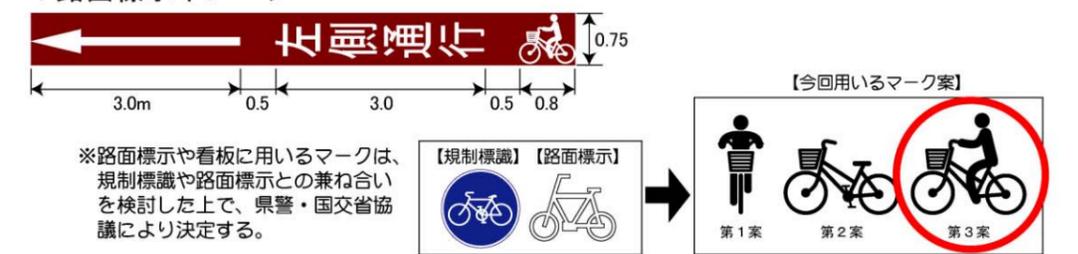
▼代表断面イメージ



▼平面イメージ

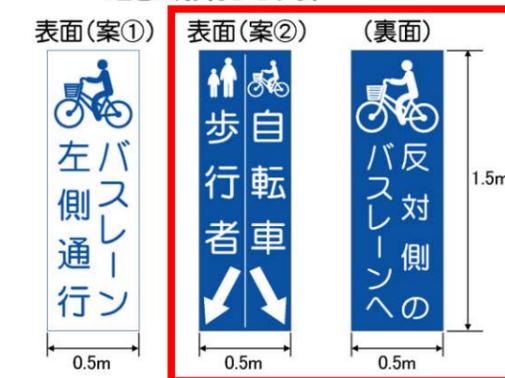


▼路面標示イメージ



▼看板イメージ

※景観に配慮し「青色に白文字」もしくは「白色に青文字」とする。



▼整備イメージ



（警察管理信号柱に添架した場合の一例）